

川崎市市民ミュージアム

2017 秋の展覧会のご案内

プレスリリース

2017.7.28



企画展

生命の表現力 — 山下清とその仲間たちの作品展

企画展示室 1

2017年9月2日[土]—10月1日[日]



野田重博《花と虫のいろいろ》クレパス / 1938年

企画展

ハイチアート展

企画展示室 2

2017年9月2日[土]—11月26日[日]



J.N.E. キヤデ《ゴナイの農場風景》制作年不詳
アクリル・キャンバス / 75.0×100.0cm / 個人蔵

特集展示

国産アニメーション誕生100周年記念展示

にっぽんアニメーションことはじめ ～「動く漫画」のパイオニアたち～

アートギャラリー 2・3

2017年9月2日[土]—12月3日[日]



下川凹天(肖像) / 当館蔵



北山清太郎(肖像) / 個人蔵



幸内純一(肖像) / 当館蔵



前川千帆(肖像) / 当館蔵

企画展

生命の表現力—— 山下清とその仲間たちの作品展

展覧会趣旨

今年、創立89年を迎える知的発達障害児入園施設「八幡学園」(1928年開園・千葉縣市川市)は、「踏むな 育てよ 水そそげ」の指導理念のもと、心の触れ合いを通して一人ひとりの特性を見出してきました。山下清は、1934年(12歳)八幡学園に入園し、そこで貼絵に出会い、才能を開花させました。山下清をはじめ、八幡学園の仲間たちである石川謙二・沼祐一・野田重博は、それぞれに障害を抱えながらも「美」に対するたぐい稀なる「天性」を感じさせる作品を多数残しています。

今回の作品展では、4人の作品100余点と合わせて山下清の放浪日記、習字、学園での思い出の写真なども公開します。数々の作品から、その表現のうちに込められた、生命の表現力の煌めきをぜひ感じていただければ幸いです。



山下清 肖像(撮影:廣澤孝志)

八幡学園でともに育った仲間たち 「」内は早稲田大学心理学教室教授 戸川行男(1903-1992)「八幡学園の子供たちの作品を見て」より引用

貼絵の天才 山下清 / 1922-1971 (享年49)

東京浅草に生まれる。1934年(12歳)「八幡学園」に入園。ここで貼絵に出会い、園児にやさしい環境のなかで制作に熱中する。6年半後(1940年)八幡学園を出奔。以後15年半に及ぶ放浪を続ける。1956年(34歳)放浪生活に終止符。学園生活の思い出や、放浪から学園に戻って思い出して描いた作品の展覧会を東京で開催。1971年、脳溢血が原因で49歳の生涯を終える。

原始芸術の風格 沼 祐一 / 1925-1943 (享年18)

10歳のときに他の施設より入園。衣服を裂いたり、時には爆発的に憤怒したりといった野性ぶりがあった。入園当時、誰も絵を描けるとは想像しなかったが、クレヨンや色紙をちぎって絵を描くようになる。「祐一君の絵には原始芸術の風格があり、ある意味では清君以上の、その何倍かも不可思議であり、奇跡的でもあります。」

クレパス画の異才 石川謙二 / 1926-1952 (享年26)

11歳のときに入園。右目はほとんど見え、18歳頃には左目も視力減退。虚弱体質で、入園までは浮浪生活を送っていた。13歳の頃から、大判の画用紙に猛然とクレパス画を描き始め、かつて自分が住んでいた浅草の情景を再現していった。「浅草公園の子であり、街頭の浮浪児であった謙二君の絵は、常に人物が描き込まれる、人臭い表現です。」

幼くして絵画的天分の持ち主 野田重博 / 1925-1945 (享年20)

11歳のときに救護法該当児として入園。わずかに氏名を記入する程度で、ほとんど読み書きができなかった。重い障害を受けていながら、競争心が強く、クレヨン・クレパス・色紙と何でも使って絵を描いた。「彼の多くの絵は健康的な印象を与えます。知能の障害は一層激しいにもかかわらず、作品の多くに写実性を感じることは、今後の作品に大きな期待を寄せてもよいと思います。」

【関連企画】

(1) 記念講演会「なぜ? どうして? — 真実を求めた山下清」

山下清作品展を通して9年間行動を共にした松岡氏しか知らない山下清の素顔に迫ります。

講師＝松岡一衛(社会福祉法人 春濤会 八幡学園 理事)

日時＝9月17日(日) 14:00—15:30 (13:30開場)

会場＝1階映像ホール / 定員＝270名(申込不要・先着順)

参加無料 ※観覧券(半券可)が必要

(2) 貼絵ワークショップ「あったらいいな、こんなチョウチョ」

講師＝松田拓実(障害者造形教育研究指導員・八幡学園造形教室講師)

日時＝9月3日(日) 14:00—16:00 (13:50開場)

会場＝3階体験学習室 / 対象＝小学生以上

定員＝18名(事前申込・先着順) / 参加費＝200円

[申込方法] 電話 044-754-4500 7月26日より受付開始

(3) 学芸員による展示解説

9月23日(土・祝) 14:00より / 参加無料 ※当日の観覧券が必要

(4) 連携特集上映〈アートへの情熱〉

連携上映として、さまざまなアーティストたちの情熱を描いた映画を特集します。

放浪するアーティストたちを描いた『放浪の画家ピロスマニ』(1969)、『FOUJITA』(2015)、『百日紅～Miss Hokusai』(2015)、アートに情熱を注ぐ人生を描いたドラマ『アキレスと亀』(2008)、障害者によるアート制作を取り上げたドキュメンタリー『まひるのほし』(1999)、『虹をかける子どもたち』(1980)、全6作品を上映します。

日時＝9月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、23日(土・祝)、24日(日)、30日(土)、10月1日(日)

各日11:30～ / 14:00～(※各回入れ替え制。15分前に開場)

会場＝1階映像ホール / 定員＝270名(申込不要・先着順)

当日券(1プログラムにつき)＝

一般600円、65歳以上・大学生・高校生500円、小中学生400円

※未就学児、障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者は無料

※各作品の上映スケジュールは川崎市市民ミュージアムHPの上映案内をご覧ください。

主な出品作品

広報用画像のご利用は広報担当へお問合せ下さい。(本展のご紹介のみに限ります。)



1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



8.

1. 山下清 肖像 (撮影: 廣澤孝志)
2. 貼絵制作にはげむ山下清 (12歳) / 1934年
3. 石川謙二《運動会》クレパス / 1939年
4. 石川謙二《学園の風呂場》クレパス / 1938年
5. 沼祐一《ひと》貼絵 / 1940年
6. 沼祐一《どうぶつ》貼絵 / 1941年
7. 野田重博《花と虫のいろいろ》クレパス / 1938年
8. 野田重博《潮干狩》クレパス / 1938年

○著作権の関係により、山下清の作品は、
新聞・雑誌・TV・インターネット等では使用できません。
○山下清作品を使用したポスター・リーフレット・チラシを
そのままインターネットに掲載することはできません。
○山下清の写真については、「八幡学園」山下清展事業委員会
が提供するもののみ使用できます。
○石川謙二、沼祐一、野田重博の作品画像は使用できます。
○画像のご使用の際は、必ず当館までご連絡ください。

【展覧会情報】

生命の表現力——山下清とその仲間たちの作品展

会場＝川崎市市民ミュージアム 企画展示室1

会期＝2017年9月2日(土)～10月1日(日)

開館時間＝9:30-17:00(入館は16:30まで)

休館日＝月曜日(ただし9月18日は開館)、9月19日(火)

観覧料＝一般700円(560円)、65歳以上・大学生・高校生500円(400円)、中学生以下無料

※()内は、20名以上の団体料金

※障害者手帳などをお持ちの方及びその介護者は無料

※9月18日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料

※「ハイチアート展」観覧券の半券で100円割引

主催＝川崎市市民ミュージアム、「八幡学園」山下清展事業委員会

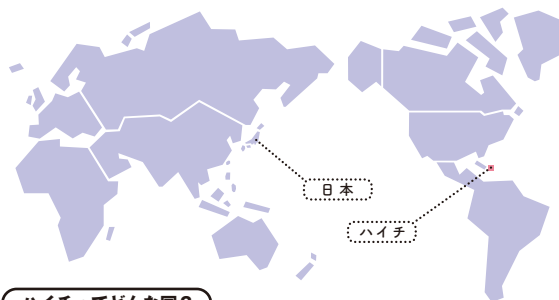
企画展

ハイチアート展

展覧会趣旨

カリブ海に浮かぶ美しい島国・ハイチ共和国。1492年にコロンブスが到達して以来、様々な国の支配下におかれたハイチは、1804年にフランスから独立して世界初の黒人による共和国として誕生しました。

フランス植民地時代には、人々の間に芸術に親しむ環境が醸成されて、やがて国民全体に広がっていきました。フランス人仕込みで絵の描き方を学んだ人々は、ハイチの美しい自然や素朴な民衆の生活をモチーフに、ハイチの文化を象徴する「ハイチ絵画」を誕生させました。南国的な華やかな色彩で、擬人化された動物たちや幻想的な風景、ブドゥー教信仰を背景とした精霊の姿などを描くハイチの芸術は、シュルレアリスムの指導者アンドレ・ブルトン(1896-1966)にも注目され、世界的に高い評価を受けています。明るく、楽しく、そして優しい人間愛と自然への親しみに満ちたハイチアートの数々をお楽しみください。



ハイチってどんな国？

南北のアメリカ大陸の中間に位置するカリブ海。その第二の島イスパニョーラ島の1/3を占める国です。四国と九州の中間くらいの面積に、約1070万人が住んでいます。

「ハイチ」という国名は、先住民が「山の多い土地」と呼んでいたことに由来しています。かつてアンドレ・マルローが「最高の絵描き民族」と評した、知られざる「アートの国」です。



フィルトン・ラトルチュール《狼の子を連れて散歩するライオンのカップル》制作年不詳
アクリル・キャンバス / 101.0×76.0cm / 個人蔵

【関連企画】

(1) 対話型鑑賞ツアー「ハイチアートでゆる〜っとオシャベリ鑑賞会」

アートの国・ハイチからやってきた作品をじっくり見て、感じたことをお話ししましょう。作品や他の参加者の視点から、何かを発見する楽しさを体験してみてください。

日時＝10月21日(土) 14:00～15:00 / 会場＝企画展示室2 / 対象＝どなたでも / 定員＝15名

(2) 親子向け対話型鑑賞ツアー「親と子べつべつ!? オシャベリ鑑賞会」

ハイチアートを見ながら自由におしゃべりしませんか？まずは親と子で別グループに分かれて鑑賞。それから親子で一緒に話をしてみましょう。きっと話したいことがいっぱいです！

日時＝11月11日(土) 11:00～11:45 / 会場＝企画展示室2 /

対象＝お子さま(5歳～小学6年生)と保護者

※プログラム中は親子別のグループに分かれます。 / 定員＝11組

(1)(2)とも参加無料 ※ただし当日の観覧券が必要です。

事前申込制(先着順) [申込方法] 電話 044-754-4500 / 協力＝アートコミュニケータ東京

(3) ミニホール上映「牛山純一ドキュメンタリー ハイチ・カリブ海シリーズ」

日本テレビで放送されていた「すばらしい世界旅行」「知られざる世界」などの制作プロデューサー牛山純一(1930-1997年)が手掛けたテレビドキュメンタリーから、ハイチ・カリブ海取材した映像を上映します。

日時＝9月24日(日)、10月29日(日)、11月18日(土) 14:00～15:00

会場＝3階ミニホール

定員＝40名 / 参加無料・自由参加(事前申込不要)

主な出品作品

広報用画像のご利用は広報担当へお問合せ下さい。(本展のご紹介のみに限ります。)



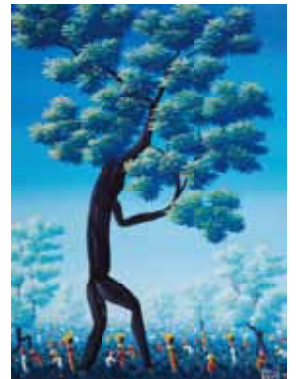
1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.

1. フィルトン・ラトルチュール《狼の子を連れて散歩するライオンのカップル》制作年不詳 / アクリル・キャンバス / 101.0×76.0cm / 個人蔵
2. カリクトス・アンリ《花を持つ少女たち》制作年不詳 / 油彩・キャンバス / 66.0×66.0cm / 個人蔵
3. J.N.E. キャデ《ゴナイーヴの農場風景》制作年不詳 / アクリル・キャンバス / 75.0×100.0cm / 個人蔵
4. フォーレスト・アヴリール《幻想の森》制作年不詳 / アクリル・キャンバス / 41.0×31.0cm / 個人蔵
5. ギー・ジョセフ《ラプトゥリー》制作年不詳 / アクリル・キャンバス / 68.0×80.0cm / 個人蔵
6. クロード・ダンブレビュ《市場風景》制作年不詳 / アクリル・キャンバス / 75.0×100.0cm / 個人蔵
7. ジャン・クロード・ポール《花の中のおうむ》制作年不詳 / アクリル・キャンバス / 50.5×40.5cm / 個人蔵

【展覧会情報】

ハイチアート展

会場＝川崎市市民ミュージアム 企画展示室2

会期＝2017年9月2日(土)～11月26日(日)

開館時間＝9:30-17:00(入館は16:30まで)

休館日＝毎週月曜日(ただし9月18日、10月9日は開館)、9月19日(火)、10月10日(火)、11月24日(金)

観覧料＝一般300円(240円)、65歳以上・大学生・高校生200円(160円)、中学生以下無料

※()内は、20名以上の団体料金

※障害者手帳などをお持ちの方及びその介護者は無料

※9月18日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料

※「山下清とその仲間たちの作品展」観覧券の半券で100円割引

主催＝川崎市市民ミュージアム

後援＝ハイチ共和国大使館 / 協力＝佐藤文則

特集展示

国産アニメーション誕生100周年記念展示 にっぽんアニメーションことはじめ ～「動く漫画」のパイオニアたち～

展覧会趣旨

100年前何が起こったのか？国産アニメーション誕生の謎に迫る！

日本で最初のアニメーションは、今から100年前、1917(大正6)年1月に浅草の劇場で公開された「凸坊新畫帖、芋助猪狩の巻」(でこぼうしんがちょう、いもすけいのししがりのまき)と考えられています。映画会社に依頼され制作にあたったのは、当時駆け出しの漫画家だった下川凹天(しもかわへこてん)。それから半年の内に北山清太郎(きたやませいたろう)、幸内純一(こううちじゅんいち)と前川千帆(まえかわせんぱん)が、相次いで作品を公開し、日本のアニメーション文化はここに芽吹きました。

しかし、これらの最初期の作品は、近年フィルムが発見された「なまくら刀」(1917年公開)をのぞくと、現在ほとんど見つかっておらず、情報も断片的にしか分かっていません。果たして、100年前に何が起こったのでしょうか？

本展では、100年前にアニメーション制作に挑んだ4人の先駆者たちの活動に光を当てると共に、現代に繋がる戦前の漫画文化とアニメーション文化の交わりが分かる関連資料を展示します。あわせて現在発見されている最古の国産アニメーション「なまくら刀」、未だ発見されていない下川凹天作品を現代のアニメーション作家たちの感性で蘇らせた「下川凹天トリビュートアニメーション」の上映展示などを行い、国産アニメーション誕生100周年を顕彰します。

あわせて、当館が所蔵する下川凹天の遺品資料を元に、「日本初のアニメーション制作者」とはまた違う、「漫画家」下川凹天の生涯を紹介します。



下川凹天「芋川棟三(部分)」東京パック(第11巻22号) 1915年 / 当館蔵

【作家紹介】

●下川凹天 しもかわ・へこてん/おうてん(1892年5月2日－1973年5月26日)

沖縄県宮古島生まれ。本名は下川貞矩(さだのり)。1905年、14歳で北沢楽天に入門するが素行不良で破門。1908年、陸軍陸地測量部製図科に入営。1912年、北沢楽天が東京パック社を退社し、楽天パックを起こしたのを期に詫びを入れ、楽天パックに入社、漫画家としての活動を始める。1913年、親戚の紹介で大阪朝日新聞に入社、写真修正係となる。1915年、朝日新聞を退社、『東京パック』(第二次)の編集などに携わるが同年休刊。1916年秋、天然色活動写真株式会社の依頼によりアニメーション映画の制作を始める。

●北山清太郎 きたやま・せいたろう(1888年3月3日－1945年2月13日)

和歌山県生まれ。1907年、大下藤次郎が起こした日本水彩画会に入会。1911年5月脱退。東京に移る。1912年、日本洋画協会を設立し、『現代の洋画』を刊行。同年9月斎藤与里、岸田劉生、高村光太郎らの「フェウザン会」の設立、展覧会開催を支援した。1916年夏、映画館で開催していたアニメーションの特集上映会を見たことで興味を持ち、独力で研究を開始。その後、友人の斎藤五百枝の紹介により日活と接触、契約にこぎつける。1917年1月頃から日活向島撮影所でアニメーションの制作を始める。

●幸内純一 こううち・じゅんいち(1886年9月－1970年10月6日)

岡山県生まれ。1905年、水彩画を学ぶために三宅克巳に入門。翌年太平洋画会に入会。明治41年、三宅から北沢楽天を紹介され東京パック社に入社、北沢楽天の退社に伴い楽天パックに移籍。1912年12月より東京毎夕新聞に入社、政治漫画を執筆。1917年2月東京毎夕新聞を退社、小林喜三郎の依頼で前川と共にアニメーションの制作を始める。

●前川千帆 まえかわ・せんぱん(1888年10月5日－1960年11月17日)

京都生まれ。本名は石川重三郎。1905年、父の死に伴い、母方の親戚前川姓を継ぐ。同年関西美術学院に入学、浅井忠や鹿子木孟郎に教えを受ける。この頃から金策のため新聞や雑誌に漫画の投稿を始める。明治45年上京、東京パックに入社。北沢楽天の退社に伴い楽天パックに移籍。1915年京城日報に入社し朝鮮へ渡る。1916年ごろ帰国、幸内と共にアニメーションの制作を始める。

【展示概要】

- ・下川凹天、北山清太郎、幸内純一、前川千帆のアニメーション制作に至るまでの履歴とその関連資料を中心とした展示。
- ・100年前のアニメーション制作について、資料や再現映像で制作方法などを検証。
- ・写真や画像資料を使った、当時の映画を取り巻く状況の解説展示。
- ・戦前に花開いた子供向け物語マンガと、それらを原作としたおもちゃ映画アニメーションの展示。
- ・川崎市市民ミュージアムが収蔵する下川凹天資料を紹介。

【関連企画】

（１）国産アニメーション100周年記念イベント

「初期アニメーション作品上映&記念講演」

現存する最古の国産アニメーション作品「なまくら刀」(1917年)の弁士・伴奏付きフィルム上映を含む、初期アニメーション作品の上映会とあわせて、生前の幸内純一や下川凹天を何度も取材した、山口且訓(かつのり)氏の記念講演を開催します。山口氏はアニメーション史の金字塔として知られる「日本アニメーション映画史」(有文社/1978年刊 ※渡辺泰氏と共著)の著者です。

日時＝10月22日(日) 上映11:30～・14:00～ / 講演15:00～

会場＝1階映像ホール 定員＝270名(申込不要・先着順)

入場料＝上映(1プログラムにつき)：一般600円、65歳以上・大学生・高校生500円、

小中学生400円 ※未就学児、障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者は無料

・講演は無料です。(講演会への参加も可能です)

〇11:30～13:00(開場11:15)

上映プログラム①

「くもとちゅうりっぷ」(1943年 / 16分 / 監督：政岡憲三)

「桃太郎 海の神兵」(1945年 / 74分 / 監督：瀬尾光世)

〇14:00～14:50(開場13:45)

上映プログラム②「蘇ったフィルムたち — 蘇ったアニメーション」

〈弁士・伴奏つき上映〉弁士：片岡一郎 / ピアノ伴奏：上屋安由美

「なまくら刀(塙内名刀之巻)」(1917年 / 4分 / 作画：幸内純一)

「浦島太郎(仮)」※(1918年頃 / 2分 / 作者不詳)

※従来は1918年の北山清太郎作品とされていましたが、本展示に関する調査で異なることが判明しました。

「漫画 癡取り」(1929年 / 14分 / 監督：青地忠三・作画：村田安司)

〈音声版上映〉

「黒ニャゴ」(1929年 / 3分 / 作画：大藤信郎)

「茶目子の日」(1931年 / 7分 / 監督：西倉喜代治)

「幽霊船(YUUREISEN)」(1956年 / 11分 / 監督：大藤信郎)

〇15:00～16:20(開場14:50)

記念講演「アニメーション史を訪ねた男、100年を語る」

ゲスト＝山口且訓(アニメーション研究者 / 「日本アニメーション映画史」著者 ※共著)

聞き手＝原口正宏(アニメーション研究者)

「蘇ったフィルムたち」の企画は、フィルムの上映環境を確保するための「Fシネマプロジェクト」の一環として、コミュニティシネマセンターの会員館を中心に全国で実施するものです。主催：川崎市市民ミュージアム、東京国立近代美術館フィルムセンター、一般社団法人コミュニティシネマセンター／協力：松本夏樹、映像文化製作者連盟

（２）ワークショップ「森のなかでアニメーションをつくろう！」

葉っぱや木の実などを集めて、それをもとに「コマ撮り」のアニメーションをつくってみよう。

＊雨天の場合、一部内容を変更して開催します。

講師＝モリタトヨミ(アニメーション作家／研究者)、高田苑実(アニメーション／映像作家)

日時＝10月15日(日) 13:30～16:00

会場＝1階遊覧展示空間および等々力緑地内

対象＝小学生～高校生

定員＝10名 参加無料・事前申込制(先着順) [申込方法] TEL.044-754-4500

（３）

「下川凹天トリビュートアニメーション&現代のアニメーション作家たちの作品上映会」

100年前に日本で最初に作られた下川凹天のアニメーションは、未だ発見されていません。その幻の作品を現代のアニメーション作家たちの感性によって「下川凹天トリビュートアニメーション」として蘇らせました。さらに、トリビュートに参加したアニメーション作家たちのオリジナル作品も紹介します。

日時＝11月19日(日) 13:30～16:00

会場＝3階ミニホール

定員＝40名 参加無料・自由参加(事前申込不要)・途中入場可能

（４）連携上映企画「スクリーンに蘇る！アニメーション傑作選」

日本の劇場用アニメーション史上の傑作を選びすぐて上映いたします。スクリーンで鮮やかに蘇るアニメーションの美しさと奥深い歴史をお楽しみいただけます。

上映作品：

「桃太郎 海の神兵」(1945年)、「パンダコパンダ 雨ふりサーカス」(1973年)、

「幻魔大戦」(1983年)、「銀河鉄道の夜」(1985年)、「千年女優」(2001年)ほか

(全10プログラム)

日時＝10月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)、11月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日) 各日11:30～14:00～

会場＝1階映像ホール

定員＝270名(申込不要・先着順)

当日券(1プログラムにつき)

＝一般600円、65歳以上・大学生・高校生500円、小中学生400円

※未就学児、障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者は無料

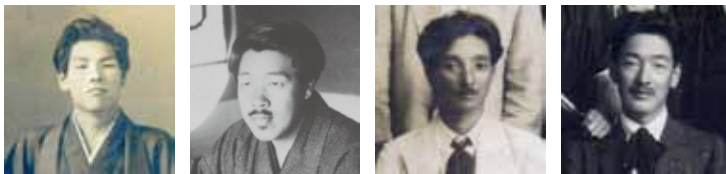
11月12日(日) 16:00～ 杉井ギザブロー監督トーク(聞き手：原口正宏)

プログラムの詳細は川崎市市民ミュージアムHPの上映案内に掲載します。

<http://www.kawasaki-museum.jp/cinema/>

主な出品作品

広報用画像のご利用は広報担当へお問合せ下さい。
(本展のご紹介のみに限ります。)



1.

2.

3.

4.



5.

6.

7.

1. 下川凹天(肖像) 2. 北山清太郎(肖像) / 個人蔵 3. 幸内純一(肖像) 4. 前川千帆(肖像)

5. 下川凹天「芋川柳三(部分)」『東京パック(第11巻22号)』 / 1915年

6. 『マンガ王国～下川凹天個人雑誌～(1巻1号)』 / 1937年 7. 下川凹天「銀座はうつる」『東京パック(18巻1号)』 / 1929年

【展覧会情報】

国産アニメーション誕生100周年記念展示

にっぽんアニメーションことはじめ ～「動く漫画」のパイオニアたち～

会場＝川崎市市民ミュージアム 2階 アートギャラリー2・3

会期＝2017年9月2日(土)～12月3日(日)

開館時間＝9:30-17:00(入館は16:30まで)

休館日＝毎週月曜日(ただし9月18日、10月9日は開館)、

9月19日(火)、10月10日(火)、11月24日(金)

観覧料＝無料 / 主催＝川崎市市民ミュージアム

企画協力＝Animation As Communication

原板協力＝松本夏樹

協力＝京都国際マンガミュージアム、

京都精華大学国際マンガ研究センター、おもちゃ映画ミュージアム、

東京国立近代美術館フィルムセンター、

大阪府立中央図書館国際児童文学館、和歌山県立近代美術館、

音楽学校メーザー・ハウス

[交通案内]

- 武蔵小杉駅(JR南武線・横須賀線・湘南新宿ライン、東急東横線・目黒線)からバスで約10分
 - 北口1番乗り場から川崎市バス→[杉40]市民ミュージアム行 終点下車 / [杉40]中原駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ / [溝05]溝口駅前「市民ミュージアム前」下車すぐ
 - 南口「東横線小杉駅」バス停から東急バス→[川133]市民ミュージアム行 終点下車
 - 横須賀線口2番乗り場から東急バス ※土曜・休日のみ→[杉05]市民ミュージアム行 終点下車
- 溝の口駅(JR南武線、東急田園都市線・大井町線)からバスで約20分
 - 北口3番乗り場から川崎市バス→[溝05]小杉駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ
 - 北口5番乗り場から東急バス→[溝02]小杉駅行「市営等々力グランド入口」下車徒歩8分
- 川崎駅(JR)からバスで約40分
 - 西口北バスターミナル82番乗り場から東急バス→[川133]市民ミュージアム行 終点下車



※当館に専用駐車場はありません。お車で越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。駐車料金ご利用の割引等はありません。

「山下清とその仲間たちの作品展」開会式・プレス向け内覧会

9月2日(土)・開会式 9:15～9:30・内覧会 9:30～11:30
 (9:30～9:50「八幡学園」理事・松岡一衛氏によるギャラリートーク)

ご参加ご希望の方は、会社名および媒体名、ご参加者の氏名、ご連絡先を広報担当までご連絡ください。
 申込締切:8月30日(水) 17:00まで ※一般招待者向け内覧会と同時開催となります。

プレスリリースお問い合わせ

川崎市市民ミュージアム 営業・広報担当(鋒山・坂下・石澤)

〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)

TEL:044-754-4500 FAX:044-754-4533

E-mail: pr_kcm@kawasaki-museum.com

http://www.kawasaki-museum.jp/